

鍋山貞親 憲法 政治評論家。明治二十四年九月一日大阪生れ。昭和五十四年八月十八日歿（八〇一先）。筆名川崎武吉。小學校卒業後職工、大正十一年日本労働総同盟組合員、総同盟分裂後、日本労働組合評議會教育部長となる。十五年ソ聯へ派遣せられ、モスクワ滞在中、日本共産黨中央常任委員に選ばれ、翌年渡邊政之輔、福本和夫等と（一七年テーゼの作成に参加。昭和二年共産黨員一斉検挙（二・一五事件）を逃れて上海へ渡り、歸國後検挙。一審で無期懲役となるも、八年獄中から佐野學と共同轉向聲明を發表、爾後（轉向の規格）となりた。戦後は世界民主研究所を設立、（及共理論家として活動。

著書に『佐野、鍋山、轉向聲明』（昭和八年六月廣文社印刷）、『轉

換期に立つ』（昭和二十二年二月十五日東京出版社）、『生産闘争と勞

働組合』（昭和二十四年四月十五日労働出版部「労働民主シリーズ」）、

『私は共産党をすてた。自由と祖國を求めて』（昭和二十四年十一月

十五日大東出版社）、『共産党批判』（昭和二十五年十一月二十日

鹿嶋社）等。

轉換期に立つ

鍋山貞親著

田代

★私は共産党をすてた★鍋山貞親著★

鍋山貞親

私は共産党をすてた

自由と祖國を求めて